

2010年8月 高尾の森

既に、お解かりになったと思いますが、東京地区連盟大会を開催する場所は、基本的に東京都であって、海辺に近い場所と山間部を交互に選んでいます。

ですから、何年かには同じ場所・施設を利用する事になりますが、都会の喧騒を離れた子ども達には、いつも新鮮で楽しい大会に違いありません。

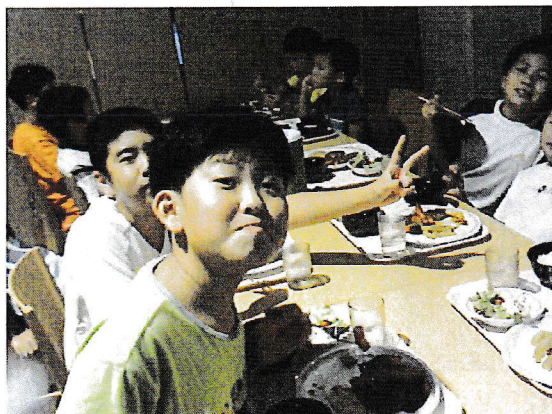
・高尾山リフト駅前の参加者。



・手旗競技に参加する団員達。



・大勢の夕食はいつも楽しみです。



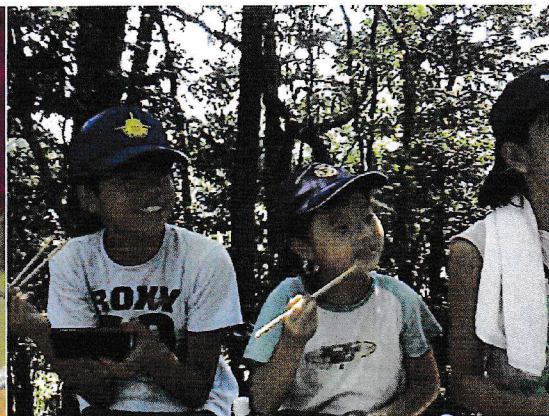
・海外団との交流も、いつもと同じです。



・何から質問しようかな～。



・木陰のお弁当も美味しいよ。



2012年8月 東京スポーツ文化館

東京の臨海地区に位置する、都立・夢の島総合体育館が生まれ変わり、2004年に新しいスポーツ文化館になりました。

この会場を利用して、2泊3日の地区連盟大会に海外団と共に参加しました。

・みんな揃って記念撮影。



・参加章を渡す、都連安藤副会長。



・海外団員と握手する大田区団員。



・香港団のお姉さん団員と一緒に。



・ロープ競技に参加の安藤団員。



・次は、私たちの番ですね。

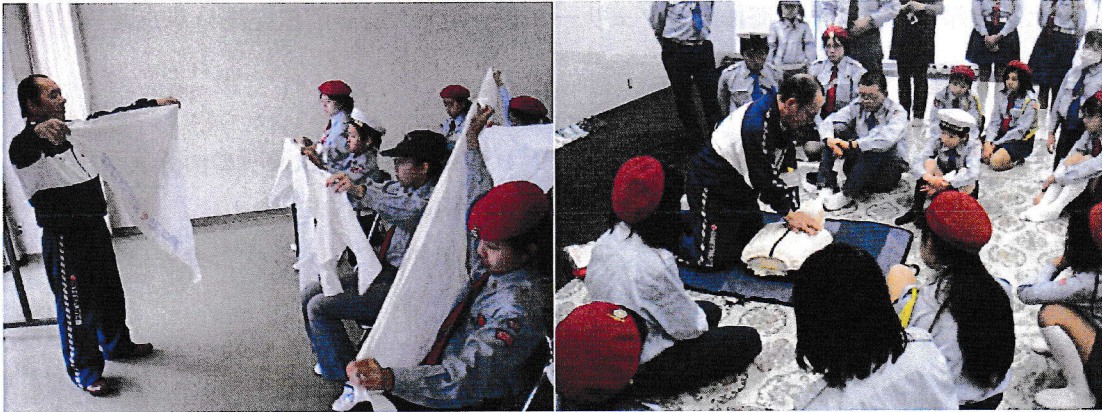


次の2014年大会は、豪雨被害復興中の伊豆大島で開催される事になっています。

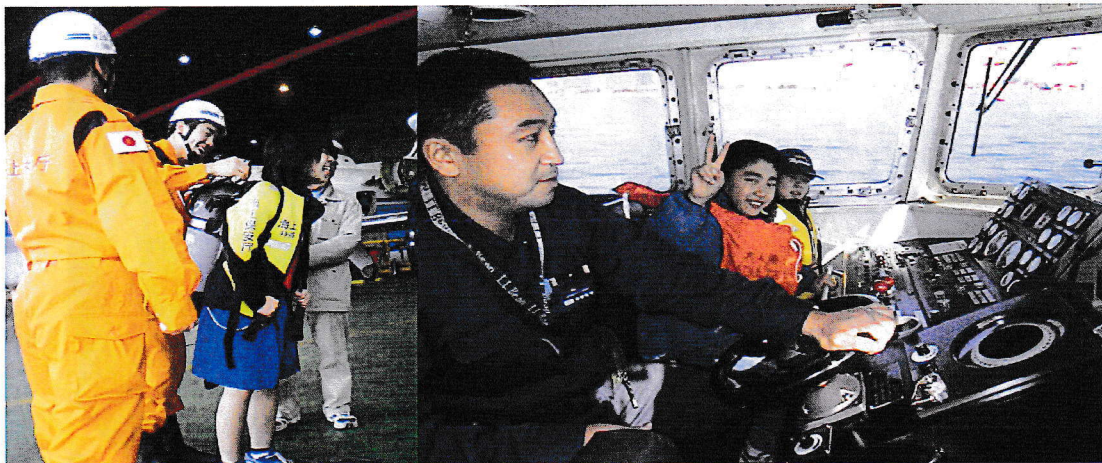
②東京地区連盟・【新年訓練初め】

東京地区連盟では、毎年1月上旬に各団の役員・幹部指導者、父母会関係者とOB等による初顔合わせの他に、各団の指導者・団員が1ヶ所に集合して、訓練初めを実施していますが、日赤指導員をお招きしての救急法講習、海上保安部を訪問しての見学等で、都内団員の交流を深めています。

- ・訓練始め講習 救急法（三角巾の使用法・人工呼吸）を勉強。



- ・海上保安庁羽田航空基地を見学。（右下は、後日別の訓練で体験乗船）



東京港・体験航海訓練（平成 22 年）

- ・ 9月12日 日曜日 午前9時30分 集合
- ・ 出航 午前10時 ・ 帰港 午後3時
- ・ 船舶 曙光（全長 17m 全幅 5m 排水量 16t 定員 40名）
- ・ 訓練実施コース

出航→大井ふ頭→品川ふ頭→日の出棧橋→竹芝棧橋→勝どき橋→晴海ふ頭→お台場→東京海上保安部（昼食）→青海ふ頭→フェリーふ頭→臨界大橋→羽田空港D滑走路→城南島→帰港

初秋と言っても、まだ暑さが残る9月12日、NPO法人・東京救難所の所長宮下様のご協力により、大型救難艇【曙光】に乗船して、体験航海に出かけました。

本隊団員と音楽隊員のほか、こどもプラスバンド教室の仲間に加え、父母会とOSFの指導員が乗船して、さあ東京港に向けて出航です。

この計画は、団育英会監査役・松原茂登樹様からのご紹介で実現した訓練です。

- ・ 乗艇前の注意を聞きます。



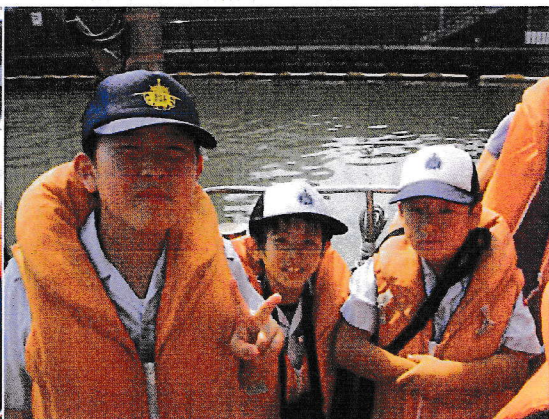
- ・ 乗艇を待つ救難艇【曙光】



- ・ 初めて救命胴衣を着ける音楽隊員。



- ・ チョッと余裕の本隊団員。



大型救難艇に乗船して、東京港内を見学した事のない子ども達、初めて高速艇に乗る不安を抱えた子ども達も、出航してしばらくするとVサインが出るほど、東京港内は穏やかな天候に恵まれて、リラックスした団員たちが甲板に現れてきました。

前半のコース、【曙光】船長から東京港の大切な役割と、働く船の説明を聞きながら、芝浦の海上保安庁・東京保安部に到着し、昼食の為にいったん上陸しました。

東京海上保安部のご好意で、昼食後【海と船の役割】と【海の安全】について、色々とお話しを戴いてから、後半のコースに向かうために【曙光】に戻りました。

・ よーそろー。



・ 大井コンテナふ頭



・ 東京海上保安部の食堂をお借りして。



・ 東京海上保安部で記念撮影。



むかし、東京湾は江戸前と言われるくらい、江戸城（いまの皇居）のすぐ前が海に面していて、今でも港区の浜松町から新橋の一带では、ビル建設の土木工事をする時に、当時江戸城の外濠であった名残りの、石垣が掘り出されることもあるくらいで、人口がふえると共に埋め立てが進んで、現在のような陸地がひろがりました。

いまから50年ほど前までは、この江戸前の大森・羽田の沖が、有名な【浅草のり】の重要な産地であった事と、羽田には有名な穴守海水浴場があった事など、団員のお爺さんお婆さん達から、何度も【むかしばなし】を聞いて、忘れないようにしてくださいね。

近代になって東京湾を中心とする工業地帯と、羽田に代表される国際空港が大きくなると、さらに埋め立てが進んだ事で、日本の代表的な物流・貿易地帯に発展し、湾岸にある東京港は横浜港・千葉港・川崎港と並んで、世界の経済に船と港の役割を果たす、重要な海辺となっています。

また、さらに埋め立てと工場の移転で、【ゆりかもめ】が開通して、船の科学館・国際展示場・テレビ局のほか、高層マンションが立ち並ぶ、大住宅地も生まれています。

さらに、この地域には2020年の東京オリンピックまでに、多くの競技会場が建設されて、【江戸前】の景色がすっかり変わる事でしょう。

・ 沖合から羽田空港を眺める。

・ D滑走路から飛び立つ旅客機。



・ OSFベテランも久しぶり。

・ 音楽隊も、船に乗りたいたね。



後半のコースは、東京海上保安部を出航、レインボウブリッジやお台場とお別れして、臨界大橋を遠くに眺めながら、羽田空港の新しいD滑走路沖で、ひっきりなしに飛び立つたくさんの航空機に驚き、ふだん経験が出来ない貴重な体験航海で、全員が船酔いもなくみんな日焼けして元気に帰宅しました。

東京救難所【曙光】の艇長と乗組員の皆さん、東京海上保安部の海上保安官の皆さん、大変ありがとうございました。

これからも、海と船の安全のために、お仕事がんばってください。|

青い羽根 募金活動

日本各地の海洋少年団は、「海辺を訓練の場」として利用する事に関連して、公益社団法人・日本水難救済会が行なっている、海難救助活動等に関するたくさんの事業に賛同して、7月の【海の日】を中心として様々な時期に、全国的な【青い羽根】募金活動を展開していますが、皆様にご賛同戴く【青い羽根】募金によって、全国に展開するボランティア救助員の活動、その為の機材の調達等が支えられています。

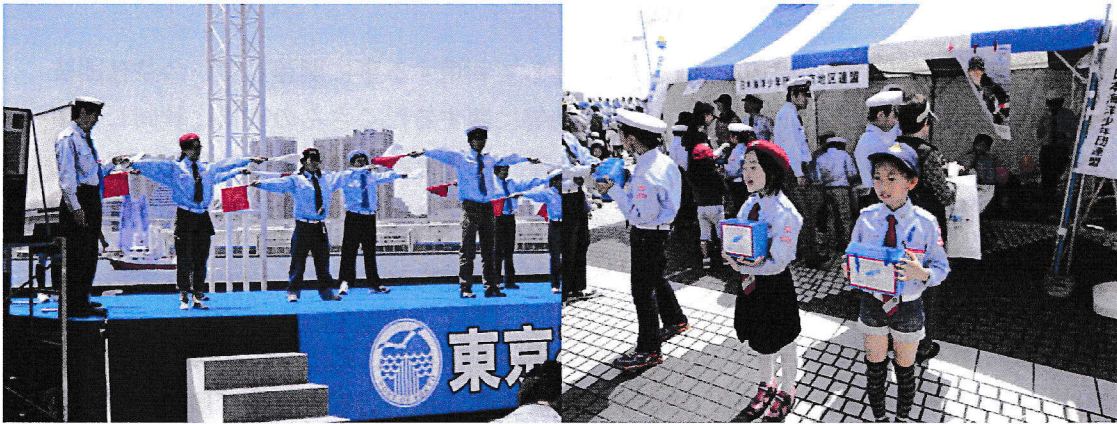
一般に、共同募金では日本赤十字社が中心の「赤い羽根」と、国土緑化機構や自治体が推進する「緑の羽根」が有名ですが、日本水難救済会の「青い羽根」募金では、全国の海洋少年団が大きく貢献しています。

大田区団では、この募金活動が周年で実施されている事から、【海の日】を含む7～8月を中心に、地元に近いJR蒲田駅前を始めとして、地域の奉仕活動を実施する場所・地域に於いても、毎年機会あるごとに実施しております。

・ JR蒲田駅前で、募金活動中の団員達。



・東京みなと祭りに参加し、募金活動中の団員たち。



・海上保安庁の観閲式で、見学で乗船した巡視船上での募金風景。

高円宮妃殿下は、数多くのご公務の中で、公益社団法人・日本海洋少年団連盟の名誉総裁をお務めになられますが、同じく公益社団法人・日本水難救済会の名誉総裁も兼務なさっています。



・毎年の募金活動に対する感謝状を、数多く戴いております。



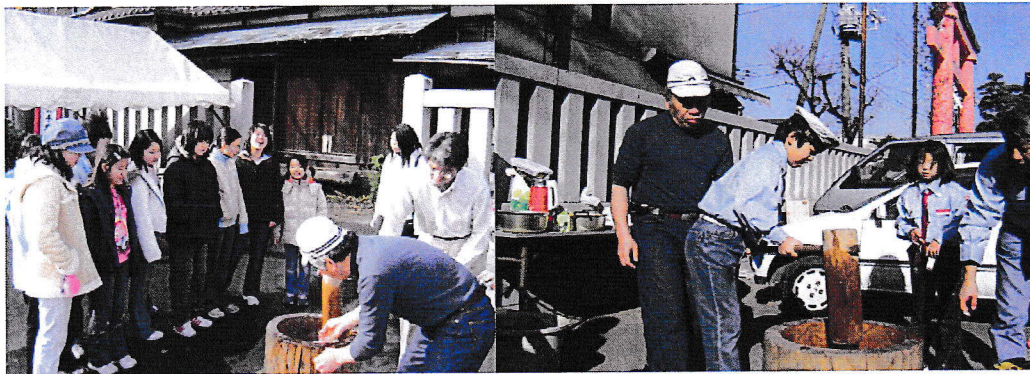
これからも、皆様のご協力をお願い申し上げます。

訓練納め・餅つき大会の記録

大田区団では、毎年訓練納めの一部として、父母会とOSF会の全面的な協力により、餅つきを行なっていますが、団員の楽しみはその後にあります。

雨天中止となった年はほとんど無く、音楽隊員も楽しみにしています。

2004年



毎年の餅つきには、コネ役の高橋指導員と、OSFの先輩たちが欠かせません。特に、高橋指導員（元・父母会長）は、餅つきのプロと自認しています。



お母さん方が、お料理をしているそばで、海苔まきのお手伝いも大変ですね。本当は、早く食べたいからかも知れませんが・・・

2007年

餅つき前に、整列して朝礼です。



あ～あ、持ち上がらないよ～

次は、誰の番かな。



こどもプラスの仲間も一緒だよ～

